

# 飯豊デポ山行・梶川尾根～門内小屋（敗退）

2014/11/15-16

メンバー：谷嶋，落合，小林，飯野

15日（土）雨

道の駅・白い森小国 7:00 村上市 8:30 梅皮花荘 13:00（宿泊）

16日（日）曇り時々晴れ・雪・雨

梅皮花荘 2:00 梶川尾根登山口 3:00 敗退地点 7:30 梶川尾根 9:30

梅皮花荘 10:40

今年の年末年始も飯豊で冬合宿を行う予定で、主稜線を縦走するメンバーがすでに5名決まった。

昨年は全山縦走に挑戦し頬母木小屋で荒天に捕まり小屋に2日間缶詰めにされてしまったが、今年は昨年の続きでルートを繋ぐ予定で予め門内小屋にデポ品を置くことにした。

当初の予定であれば、小屋閉め前・林道のゲートが通行止めになる前に行うべきことであったが、メンバーの都合がなかなか合わず気が付けば11月中旬となってしまった。

今回は合宿メンバーの谷嶋・落合の他に、荷揚げのサポートで小林・飯野が同行してくれた。

山行2日前程から冬型の気圧配置が強まり、北日本・日本海側で寒気が停滞する予報となり、前日には北海道で11月として記録的な積雪となった。

山行前にタイミング悪く今年最初の寒波がやってきてしまった、飯豊でもそれなりの積雪を覚悟しての出発となつたが、装備はほぼ冬と変わらないくらいになつてしまい一足先に雪山を満喫してしまうのだろうか。

宇都宮を前夜のうちに出発、西高東低の冬型の気圧配置で関東は星空がキレイだったが、米沢に入ると予報通り雨が降りだし、前日の宿（道の駅白い森小国）に着くと案の定ほん降りの雨。

翌朝になっても雨は止まず、気温 2°C の土砂降りという登山には絶悪過ぎる条件。。

雨の中を行動し稜線に出たら冷凍マグロにされること必至の条件だったので、さすがに午前中からの行動は自粛しやることも無いのでファミレス求めて片道 38 キロの新潟・村上市まで移動して作戦会議。

現地に着いたら早朝の為まだ開店しておらず、マックでお茶を濁すが 2 時間で限界。

隣接するホームセンタムサシで雪国仕様のグッズを物色、冬山装備が整ってしまうほどの品揃えに越後の洗礼を受けた。

相変わらず雨は止む気配が無いので、小腹が空いたところですき家で昼飯を食べて仕切り直す。

午前中は全く計画になかった、マクドナルド～ホームセンタムサシ～すき家の村上三店を縦走してしまうことになった。雨は止む気配が無いが少しでも動けるならと梅花皮荘へ向かう。

しかし現地へ着いても天候は変わらず予定を大幅に変更、梅皮花荘に飛び込みで素泊まりの宿泊をお願いし、明け方 2 時発“Light&Fast”で門内小屋を目指すことになった。

前々日からの雨で飯豊の山々は確実に白さを増していた、中腹から上はそれなりのラッセルになるだろうと覚悟していたが、4 人いるし天気も回復傾向にあるので何とかイケるだろと高を括っていた。

梅皮花荘では素泊まりで宿泊、昼過ぎからのんびり温泉に浸かり酒を飲む、午後から窓越しにみえる景色がミゾレ交じりに変わった。

こういう宿には泊まり慣れていないせいか、ダラダラ過ごしていたらアツという間に時間が過ぎてしまう。

酒とつまみでお腹一杯となり夕飯は持参した棒ラーメンだけを食べて、気が付いたら電気を付けたまま 19 時過ぎにみんな寝落ちしていた。。宴もたけなわ、夜は下の階のカラオケがうるさかった。

明け方 1 時起床、計画が上手くいけばスーパー・カモシカが達成出来るので変なスイッチが入る。



梅皮花莊から奥にちょうど梶川尾根がみえる

林道からみる飯豊の稜線は月明かりと星空に照らされ白く輝いていた、梶川尾根に取りついたら薄つすら積雪が出始めてくる。

100m 標高を上げるごとに、踝、膝下、、膝上、、腰上…、ヘッデンを付けてのラッセルも中々新鮮だが、標高 1,000m で遂に胸近い万歳ラッセルで牛歩状態となり最後は呆気なく撃沈してしまった。

見上げる梶川峰は絶望的に程遠く、門内小屋ピストンでさえ 2 日間では下山出来るコンディションには見えなかった。

周囲の山は比較的視界良好で積雪も少ないが、飯豊の稜線に掛かる厚い雲は全くキレることが無く強風が吹き荒れている典型的な冬型の天気となっていた。



標高 1,000m 付近の鞍部、奥に見えるのが梶川峰だがこの辺りで一気に積雪が増え呆気なく敗退に追い込まれた。夏道なら 5 時間程度で稜線に出られるが今日は梶川峰ですら絶望的に遠い。



分かってはいたことだが晩秋から冬に様変わりするこの季節、低気圧が一発通過する程度でも山はリセットされてしまうということを改めて思い知った。

荷揚げは失敗に終わってしまったが、デポ山行という準備企画でまた飯豊に打ちのめされてしまった。

来年以降飯豊で冬合宿を行う場合、荷揚げは 10 月いっぱいに済ませておこう。。

冬合宿に向けて気持ちが引き締まった反面、今年もこんな飯豊に翻弄されてしまうのだろうか！？

ハマりたいようでハマりたくない、他に類を見ない何とも不思議な魅力を持った山である。

(記録 落合)